

様式第10号ア（特定分野に強みや専門性を持つ学科等に係る特例に関する資料）

1. 当該学科等において身に付ける強みや専門性に係る活動等が顕著であるか

○強みや専門性に係る活動の内容

昭和27年開設の福岡県立保育専門学院から、福岡県立社会保育短期大学保育学科（昭和42年開学）の流れを汲んで保育者養成を行っている福岡県立大学人間社会学部人間形成学科の特徴は、人間の心身の形成過程と教育およびその諸問題に関する総合的な研究・教育を行う点にあり、幼児教育・保育、生涯にわたる心理臨床などに携わる専門的な人材を育成することを目的とした教育課程が編成されている。このような教育課程の特性を活かして、本学科では、単に幼稚園教諭一種免許状を取得するだけでなく、心理学に精通した幼稚園教諭を養成する「**子ども心理教育支援プログラム**」が設置されている。具体的には、幼稚園教諭一種免許状を取得するための基幹科目・展開科目の学修に加えて、心理学の専門家として仕事をするために必要な、最小限の標準的基礎学力と技能を修得したと認められる認定心理士（日本心理学会）の取得に必要な単位を学修する。このプログラムの学修によって、幼児教育・保育を専門としながら、様々な子どもたちへの支援・対応を可能にするサブスペシャリティとして心理学の知識や技能を身に付けた幼稚園教諭を養成している点が、本学科において学生が身に付ける強みや専門性となっている。

○強みや専門性を身に付けるために想定される期間や単位数等

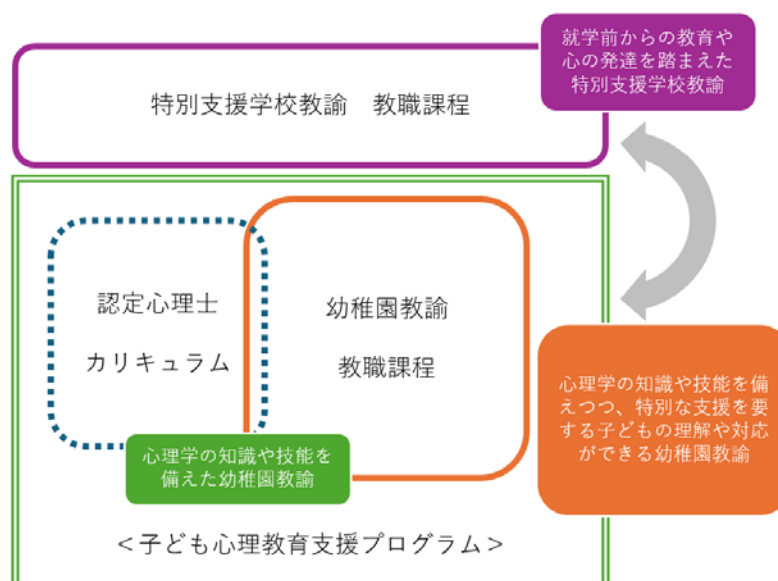
本学科において卒業に必要な単位数は128単位で、その内訳は基盤教育科目47単位、自由選択12単位、専門教育科目69単位である。「**子ども心理教育支援プログラム**」に登録し、幼稚園教諭一種免許状と認定心理士を併せて取得し、心理学の専門性を有する幼稚園教諭となるための学修では、卒業に必要な単位数の中で幼稚園教諭一種免許状に必要な科目60単位は満たされるが、認定心理士について、日本心理学会が「申請の手引き」に定める心理学関連の科目32単位*が必要となり、それら92単位に加え、卒業に必要な47単位（基盤教育科目37単位、専門教育科目必修2単位、演習2単位・卒業論文6単位）を併せて4年間で139単位の取得が必要になる。この度申請する特別支援学校教諭二種免許状の取得のためには16単位が必要であり、幼稚園教諭一種免許状、認定心理士に必要な92単位に合計して108単位となる。これらに卒業に必要な47単位を加え、合計で155単位を取得することとなる。（特別支援学校教諭一種免許状の取得の場合は、26単位必要となり、合計で165単位となるため、本申請は特別支援学校教諭二種免許状での申請を望むものである）

*認定心理士取得のための単位数32単位は、演習2単位、卒業論文6単位を除いた単位数である。

○期待できる相乗効果

教育学に併せて心理学の内容も学ぶ「**子ども心理教育支援プログラム**」の学修によって幼稚園教諭一種免許状・認定心理士を併せて取得しつつ、さらに特別支援教育に関する知識や技能を学修して、その教員免許状を有する人材を養成することができる教育課程を編成することにより、乳幼児期からの子どもの発達段階を理解し、かつ心理学に関する基礎的な知識および相談業務に関する基礎的技能を有した特別支援学校教諭を養成できるだけでなく、特別な配慮を要する子どもに対する教育・支援や、心理学に関する専門的な知識と基礎的な相談業務の技能を有する幼稚園教諭の養成も可能になる。つまり、幼稚園教諭養成だけでなく、特別支援学校教諭養成の観点においても、特

色ある、より質の高い教員養成が可能になるという効果が期待できる。また、子どもの就学前から就学後までを見通した幼保小接続の観点で、教育の質向上に寄与する人材が養成できる。



2. 当該学科等で身に付けることができる強みや専門性と認定を受けようとする免許状の種類が、地域や学校現場のニーズ等に応じたものであるか

○教育委員会等からの要望や地域や学校における課題

直近10年間で義務教育段階における児童生徒数は1割減少する一方、特別支援教育を受ける児童生徒は倍増している（文科省初等中等教育局「特別支援教育の充実について」令和4年）。このような全国的な動向は、本学が位置する福岡県でも同様であり、今後県内に3校の特別支援学校の新設が計画されている。しかしながら、令和6年度の福岡県・福岡市の教員採用試験における特別支援学校教諭の充足率は県82.7%、市66.3%と採用予定人数を大きく下回っている。加えて、各特別支援学校では産休・育休取得による教員補充もままならず、特別支援学校教諭の慢性的な不足が課題となっている。さらに本学科のある筑豊地域における教員不足は深刻であり、毎年地域の教育委員会や小中学校から、講師派遣の依頼が寄せられている。

このような課題は幼稚園教育においても同様であり、文部科学省初等中等教育局幼児教育課「令和5年度幼児教育実態調査」によれば、77.1%の園に障害のある幼児等が在園し、1園あたり平均7.5人が在園していることが報告されている。本学の学生が、教育実習事後指導の中で実習を振り返る際のコメントには、「それぞれの年齢での発達理解と、認定されている障害の特性を学ばなければならない」、「いわゆるグレーゾーンの子どもの対応は何が正解か分からない」、「（実習園から）子ども一人一人に合わせた対応力、子どもの苦手なことを理解すること、保護者との連携が必要との指導を受けた」等の意見がみられ、学生が現場において特別な支援を要する子どもへの対応に苦慮している実態とともに、現場からは、幼稚園教諭として特別支援教育に関する知識・技能を身に付けることが強く求められていることが窺える。

このように、大学近隣の地域や本学科で学ぶ学生が卒業後に就職する教育現場では、特別な支援を要する子どもへの対応や個別指導、インクルーシブな教育を実践できる教員が求められており、

「子ども心理教育支援プログラム」に併せて、特別支援学校教諭免許状を取得することで、様々な発達段階にある子どもたちの教育支援が行える幼稚園教諭、幼児期からの心身の発達あるいは心理支援の知識や技能を有する特別支援学校教諭の養成に対する期待に応えることができる。

○要望や課題に対して解決できる教育課程の内容

当該学科の教育課程（専門教育科目）の特色を生かした「子ども心理教育支援プログラム」は、幼稚園教諭一種免許状と認定心理士の両方の取得を可能にするカリキュラムであるため、総合的な援助力に対する学修を進めることができる。これに加えて、新たに特別支援学校教諭の教職課程を設置することで、より質の高い教育支援を行うための知識や技能の修得が期待される。

現在、幼稚園教諭一種免許状のカリキュラムにおいて免許必修科目である特別支援教育、幼児理解の理論と方法、教育相談（幼児教育）、発達心理学などの科目が設置され、生涯発達の視点からの学修が進められている。そのためすでに本学の養成する幼稚園教諭は幼児期から学童期までを見通した発達における支援について学修している。認定心理士のカリキュラムにおいては、特別支援教育の現場でよく活用される WISC などの心理検査や応用行動分析を使った発達障害児への療育ならびにペアレントトレーニングについて学修している。さらに発達障害や知的障害、病弱児の生理・病理に関して、医学概論、精神医学、生理・神経心理学や、障害者・障害児心理学などの科目を通して学んでいる。これらの二つのカリキュラムを合わせて学修することによって得られる知識・技能は今回申請する特別支援学校教諭においても基礎および応用となる重要なものである。

現在の社会的ニーズは、通常の学校・学級等において移行期の支援や高等学校卒業後を見通した支援を行うこと、それを担うことができる人材の確保であり、各発達段階を縦断的にも理解し支援できる人材である。このことは今回設置する特別支援学校教諭の教職課程の教員養成においても、個別の教育支援計画の作成・遂行において重要なことである。本学において生涯発達、幼児教育、心理学を中心とした学びの中で、幼稚園教諭免許と認定心理士、特別支援教育学校教諭免許を重ねて取得できることは、各発達段階を縦断的かつ横断的に理解し支援できる人材育成に繋がる。

さらに上記のことに加え、幼児、児童および生徒の教育的対応に関して家庭や地域の教育・福祉施設に対して相談に乗ること（コンサルテーション）も必要となる。この点に特別支援教育学における学びに加え、本学の心理学的な知識や援助技法を活用することで、それを円滑かつ効果的に進められるようになるであろう。特に保護者等のニーズを引き出し、尊重する形で教育の具体的な方法を共に検討し、協働することができるようになる。加えて、医療や障害福祉の専門機関・専門職と連携する際にも心理学的な視点のみならず特別支援教育学の視点をもつことで、より有意義な連携をすることができるようになる。

なお、令和5年度における京都市の教員採用試験では、幼稚園教諭免許状と特別支援学校教諭免許状を併せ持つ者の受験が可能になった。さらに、令和7年度の青森県における教員採用試験において、幼稚園教諭免許状を有し幼稚園等で3年以上の実務経験のある者が特別支援学校小学部教員採用の特別選考の対象となった。このような動きが、全国的に波及すれば、幼稚園教諭と特別支援学校教諭の免許状を併せ持つ本学科の学生および卒業生の教員採用試験の受験も可能になる。つまり、本学科からも就学前の幼児教育・保育に関する知識や技能を有しつつ、特別支援学校に勤務する人材の輩出が可能になり、そのような人材養成に対する要望や課題に対応することができる。

また、本学科が「子ども心理教育支援プログラム」に加え、特別支援学校教諭二種免許状の取得に際し、指導する上で学生のニーズを踏まえ、教員就職を希望する学生への就職指導を行っていく体制を整えている。下記「○科目開設上の工夫や履修指導の体制」にも示す通り、特別支援教育に関する専門性を有する教員と、特別支援学校において豊富な教育経験を有する教職専任教員における就職指導体制の充実である。また、学生のニーズについては、卒業生の中には卒業後に他の大学ではあるが特別支援学校教諭免許状を取得し、実際に教員として就職した者がおり、在学生においても潜在的なニーズがあると考えている。このことは、保育士資格に関することにはなるが、保育所か児童養護施設等の施設を選択して行う実習（本学科における保育実習Ⅱ-A（保育所）、保育実習Ⅱ-B（施設））において、近年施設を選択する学生が増えており、障害児等の発達支援を含む特別支援教育に関する興味を持った学生が増えている傾向がある。このようなニーズのある学生に対しては、特別支援学校教諭二種免許状の取得を希望した場合、教員就職への指導体制に則り指導を行っていくものである。

3. 身に付ける強みや専門性に係る活動等と二種免許状の教職課程の両立を目的とした教育課程等であるか。

○両立を目的とした教育課程について

表は、免許・資格に関する基盤教育科目および専門教育科目についての学年配当を免許・資格別に示したものである。学生が年次を追って段階的に希望する各免許・資格要件を満たしていけるよう配慮した教育課程が編成されている。本学科が定めるCAP制では、各期30単位を上限とした履修制限を行い、授業とその事前事後の学修時間確保のための配慮がなされている。いずれの学年においても、年間60単位を下回るカリキュラムとなっており、CAP制の上限に抵触しない範囲で無理なく学修が進められるカリキュラムとなっている。また、学外実習については、特別支援学校での実習時期を4年次に確保するため、幼稚園教育実習（Ⅰ・Ⅱ）および、保育実習（Ⅰ・Ⅱ-A・Ⅱ-B）を3年次後期までに修了できるような実施時期に設定した。このように、本学科では心理学に精通した幼稚園教諭の養成、すなわち「子ども心理教育支援プログラム」と特別支援学校教諭（二種免許状）の教職課程を両立させた教育課程が編成されている。加えて、「子ども心理教育支援プログラム」を希望し、幼稚園教諭一種免許状及び、認定心理士に加え、特別支援学校教諭二種免許状の取得の両立を図る学生の多くは、保育士資格の取得も希望することが想定される。保育士資格に必要な単位を積み重ねた場合は、2年次に年間60単位を超えるケースもあり、この観点からも特別支援学校教諭二種免許状の取得で認定を受けることが望ましい。

表 標準履修年次ごとの免許・資格別の科目(単位数)の配当（別添の履修モデル参照）

標準履修年次	幼稚園		認定心理士		特別支援学校		小計	
1 年	12	(18)	5	(10)	3	(4)	20	(32)
2 年	15	(19)	9	(18)	4	(5)	28	(42)
3 年	12	(17)	1	(2)	4	(4)	17	(23)
4 年	3	(6)	1	(2)	2	(3)	6	(11)
免許・資格のために必要な単位数の小計	42	(60)	16	(32)	13	(16)	71	(108)

註1) 左の数字は科目数、右（ ）内の数字は単位数を示す。

註2) 卒業には、免許・資格のために必要な108単位に加えて、さらに47単位が必要であり、合計で155単位となる。

○科目開設上の工夫や履修指導の体制

全体として、1年次は基盤教育と専門教育の基礎的内容の学修を進め、翌年度に開始される実習を考慮して2年次は免許・資格に関わる専門教育を充実させ、各免許・資格に係る実習が開始される3年次以降は、各教育現場での実践と学内での理論等との学修を往還させられるような科目を配置するとともに、そのための学修時間を考慮したカリキュラムを編成するなど、学修の順序性を考慮して均等な学年配当を行っている。

また、特定の学年に特定の免許・資格の科目を集中させないことで、幼児教育、心理学、特別支援教育の相互の関連性を確認しながら学修を進めていくことが可能になり、それぞれの分野についてより深い学びを意図して、意欲的に学修が進められるよう配慮を行っている。

「子ども心理教育支援プログラム」に登録して学修する学生が、卒業論文の作成に取り組む際には、子ども教育・特別支援教育関係の教員だけでなく、心理学（主に臨床系）を専門領域とする教員の指導を受けられるように配慮している。

学科全体としての指導体制として学科定員50名に対し、2名の専任教員が学年担任として配置され、毎年度当初のオリエンテーションだけでなく、日常的な進路生活面の支援、GPAに基づく学修支援（面談・相談）、ゼミ選択等に関わっている。また、特別支援学校教諭の教職課程に係る履修指導の体制については、現在すでに本学科に在籍し、特別支援教育に関する専門性を有する教職専任教員3名に加え、開設年度に、特別支援学校において豊富な教育経験を有する教職専任教員（特任教授）1名が新たに就任する予定である。なお、新規に就任を予定している教員は、その職務上の経験を生かし、障害に応じた指導法や教育実習（事前事後指導を含む）を担当することを予定している。

4. 当該学科等の学位プログラムと当該学科等で身に付ける強みや専門性との関係が認められるか

本学科において達成すべき能力としての学位授与方針（DP）は以下の通りである。

【知識・技能】

- ・現代において求められる幅広い基礎的教養を有している。
- ・保育・幼児教育または心理学及び心理的援助、隣接諸科学に関わる基礎的知識を有している。
- ・現代において求められる汎用的技能を身につけている。
- ・保育・幼児教育または心理的援助に必要な基礎的技能を身につけている。
- ・教育および心身に関する諸問題を検討するための基本的な科学的手法を身につけている。

【思考・判断・表現】

- ・現代における諸問題について、幅広い分野の知識をもとに、必要な情報を収集、分析し、表現することができる。
- ・教育または心身に関する諸問題について論理的に思考し、判断することができる。
- ・教育または心身に関する諸問題について、自らの考えを適切に表現することができる。

【主体性・多様性・協働性】

- ・異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。
- ・教育または心身に関する諸問題に対して主体的に取り組むことができる。
- ・多様な人々の立場やものの見方について理解し、協働する力を身につけている。

必要な情報を収集・分析し、「多様な人々の立場」を理解しながら、「教育および心身に関する諸問題」を検討し、それに主体的に取り組む、論理的に判断し、自分の考えを表現することは、「子ども心理教育支援プログラム」が意図する内容のみならず、特別支援教育の「障害のある児童生徒等の自立と社会参加の加速化に向け、ICTの活用等を含めた取り組みの充実を図り、障害のある児童生徒等が十分に教育を受けられる環境を構築する」という『特別支援教育の充実方針』に合致するものである。

また、DPを実現するために体系化された教育プログラムの編成・実施方針（CP）は、以下の通りである。

1. 現代において求められる幅広い基礎的教養や汎用的技能、基礎的教養をもとに思考・判断し表現する力、異なる文化や価値観を理解した上で共に生きていく姿勢を身につけるために、《基盤教育科目》と《全学横断型科目》を配置する
2. 人間形成学科の各コースに共通する教育学、心理学および保健学に関わる基礎的・基本的な知識と技能を身につけるために、《専門教育科目（基幹科目）》を配置する。
3. 保育・幼児教育に関する専門的な知識及び技能、教育に関する諸問題を論理的に考察する力とその成果を表現する力を身につけるために《専門教育科目（展開科目こどもコース）》を配置する。
4. 人間のこころの理解および心理的援助に関わる専門的な知識及び技能、心身に関する諸問題を論理的に考察する力とその成果を表現する力を身につけるために《専門教育科目（展開科目心理コース）》を配置する。
5. 人間形成学科各コースに共通して学ぶことが望ましいと思われる、教育および隣接諸科学の専門的な知識を身につけるために、《関連科目》を配置する。
6. 人間形成学科における学びの集大成として、専門知識・技能、論理的思考・判断・表現力、主体性・多様性・協働性を身につけるために、自分が探求したいテーマに基づいて専門性を深め、その成果として論文を作成する《演習、卒業論文》を配置する。

《基幹科目・展開科目》に配置する、主に教育学・心理学に関する専門性は「子ども心理教育支援プログラム」を保障するカリキュラムであり、この内容と《関連科目》に配置する特別支援教育が有機的なつながりを持たせるために配慮された学科の教育プログラムになっている。今回新たに設置を計画している特別支援学校教諭の教職課程は、当該学科の学位プログラムや身に付ける強みを基礎として設定されており、学科の目的・性格と合致している。

福岡県立大学 人間社会学部人間形成学科 「子ども心理教育支援プログラム」履修モデル

幼稚園教諭一種

認定心理士

特別支援学校教諭二種

			1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				合計 単位数
			前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	
			必修科目																
基 幹 科 目		必修科目	教育史	2															2
		必修及び選択必修科目 且つプログラム科目	教育学概論 A	2	発達心理学 II	2			生涯教育論	2									6
		プログラム科目	発達心理学 I—A	2					教育心理学概論 (教育・学校心理学)	2			教育制度論 (関係行政論)	2	教育相談 (教育・学校心理学)	2			
			発達心理学 I—B	2										教育相談 (幼児教育)	2				12
展 開 科 目	こ ど も コ ー ス	プログラム科目	造形 I	1	保育者論	2	保育学	2	音楽Ⅲ	1	体育Ⅱ (通年)	1	幼児理解の理論と方法	2			保育内容演習	2	2
			音楽Ⅰ (通年)	2	造形Ⅱ	1	音楽Ⅱ	1	保育カリキュラム論	2	幼児と健康	1	保育方法論	2			保育・教職実践演習 (幼稚園)	2	2
							体育Ⅰ (通年)	1	保育内容の指導法・環境	1	幼児と人間関係	1	保育内容の指導法・健康	1					
							特別支援教育	1	保育内容の指導法・言葉	1	幼児と表現 B	1	保育内容の指導法・人間関係	1					
							保育内容総論	2	保育内容の指導法・表現 A	1	幼稚園教育実習Ⅰ	2	保育内容の指導法・表現 B	1					
							幼児と環境	1	幼稚園教育実習事前事後指導 (1年半)	1			幼稚園教育実習Ⅱ	2					
							幼児と言葉	1											
							幼児と表現 A	1											42
	心 理 コ ー ス	プログラム科目	対人心理学	2	社会心理学 (社会・集団・家族心理学)	2	学習心理学及び言語の習得 (学習・言語心理学)	2	生理心理学及び神経心理学 (神経・生理心理学)	2	認知心理学 (知覚・認知心理学)	2							
							比較心理学	2	心理学実験Ⅱ	2									
							障害者・障害児心理学	2	心理学研究法	2									
							心理学実験Ⅰ	2											
							心理学統計法	2											
																			22
関 連 科 目		プログラム科目			障害者教育総論	2	病弱者の心理・生理・病理	1	知的障害者の指導法	2	知的障害者教育総論	1	視覚障害者教育総論	1	特別支援学校教育実習事前事後指導 (通年)	1			
					知的障害者の心理・生理・病理	1	病弱者の指導法	1	肢体不自由者の指導法	1	発達・重複障害者教育総論	1	聴覚障害者教育総論	1	特別支援学校教育実習	2			
					肢体不自由者の心理・生理・病理	1													16
											演習 (通年)	2			卒業論文 (通年)	6			8
基 盤 教 育 科 目	教 養 科 目	必修科目及び 選択必修科目	法学	2	哲学	2	論理学	2	国際関係論	2	性教育学	2							
			文学	2	経済学	2	数学概論	2											
			政治学	2	統計学	2	人権論	2											
					情報科学	2													24
	必修科目及び選択 必修科目且つ 幼児必修のための プログラム科目	必修科目及び選択 必修科目且つ 幼児必修のための プログラム科目			憲法*	2													2
			心理学概論	2															2
	基 礎 科 目	必修科目	リーディング・ライティング (1)	1	リーディング・ライティング (2)	1	総合英語 (1)	1	総合英語 (2)	1	選択外国語Ⅲ (1)	1	選択外国語Ⅲ (2)	1					
			選択外国語Ⅰ (1)	1	選択外国語Ⅰ (2)	1	選択外国語Ⅱ (1)	1	選択外国語Ⅱ (2)	1									
			教養演習	1															11
		選択必修科目	保健理論	2															2
			スピーキング・リスニング (1)*	1	スピーキング・リスニング (2)*	1													
			情報処理の基礎と演習*	2	健康科学実習Ⅱ*	1													
		幼児必修のための プログラム科目	健康科学実習Ⅰ*	1															6
小計				30		25	小計	30		24	小計	15		14	小計	13		4	合計 155

※通年や学年をまたがって開講されている科目については、授業開始年次、学期に記載するとともに、単位数の集計を行っている。

※授業科目名称の下線は、「教育の基礎的理解に関する科目等」(24単位)を示している。

※基盤教育科目の*印は、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」(8単位)を示している。

様式第10号イ

<人間形成学科> (認定課程: 特支二種免(知・肢・病))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	「健康科学実習Ⅰ」や「スピーキング・リスニング(1)」、一般教養等の基礎科目を通して、教員に必要な基礎知識を学ぶとともに、「教育学概論A」や「発達心理学Ⅰ-B」などの学修を通じて、職業としての教員の基盤となる知識を理解する。
	後期	「障害者教育総論」を通して特別支援教育の意義や成り立ち、インクルーシブな社会を実現するための地域における学校・教員の役割などを理解する。くわえて、「知的障害者の心理・生理・病理」「肢体不自由者の心理・生理・病理」を通して知的障害者および肢体不自由者の心理・生理等の特性を学び障害理解のための基礎を理解する。また、前期に引き続き、「憲法」や一般教養等の基礎科目を通して、教員に必要な基礎知識を学ぶとともに、「保育者論」などの学修を通じて、職業としての教員の基盤となる知識を理解する。
2年次	前期	「病弱者の心理・生理・病理」や「病弱者の指導法」を通して、病弱者の心理的・生理的特性や必要とされる教育的配慮、教育課程、指導法について学ぶと共に、「保育内容総論」や保育の領域に関する科目を学び、理解を深め、教育を行うための基礎を理解する。
	後期	「知的障害者の指導法」や「肢体不自由者の指導法」を通して、知的障害者や肢体不自由者に必要とされる教育的配慮、教育課程について学び、障害の特性に配慮した指導法を身につける。また、「保育カリキュラム論」や保育内容の指導法に関する科目を学び、保育に関する指導について理解を深める。
3年次	前期	「発達・重複障害者教育総論」を通して発達障害者、重複障害者の障害特性に配慮した教育課程を理解して指導法を身につけると共に、「知的障害者教育総論」を通して、知的障害者の心理的・生理的特性についての理解や必要とされる教育的配慮、教育課程についてさらに学びを深めて障害特性に配慮した指導法を身につける。また、保育の領域に関する科目を学び保育内容についての理解を深め、「幼稚園教育実習Ⅰ」において実践を通して幼児理解について学ぶ。
	後期	「視覚障害者教育総論」「聴覚障害者教育総論」を通して、視覚・聴覚障害者の障害特性の理解を深め、障害特性に配慮した指導法を身につける。また、「幼児理解の理論と方法」「教育制度論(関係行政論)」や保育内容の指導法に関する科目を学び、保育に関する制度や対象理解、指導について理解を深めると共に、「幼稚園教育実習Ⅱ」を行いこれまでの学びについて実践を通して指導や教員の役割について理解を深める。
	通年	「幼稚園教育実習事前事後指導」を通して実習に向けての準備を行う。
4年次	前期	「特別支援学校教育実習」を行いこれまでの特別支援教育に関する学びについて実践を通して理解を深める。また、「教育相談(幼児教育)」を通して、幼児や保護者に対する支援について理解を深める。
	後期	「保育・教職実践演習(幼稚園)」を通して、これまでの学修や教育実習で得られた知識・知見などを踏まえて、今後の課題等を考えることができるようになる。
	通年	「特別支援学校教育実習事前事後指導」を通して、実習に向けての準備や実習の振り返りを行う。

様式第10号イ（特支）

<人間形成学科>（認定課程：特支二種（知・肢・病））（基礎免許状となる課程：幼稚園教諭一種免許状）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		基礎となる教諭の免許状に関する履修カリキュラム				特別支援教諭免許状に関する履修カリキュラム	その他教職課程に関連のある科目	強み・専門性を身に付けるための科目・活動
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等	教科(領域)に関する専門的事項	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	特別支援教育に関する科目		
1 年次	前期	教育学概論A		造形Ⅰ	健康科学実習Ⅰ			心理学概論 対人心理学
		発達心理学Ⅰ-B			スピーキング・リスニング(1)			発達心理学Ⅰ-A 精神保健学
					情報処理の基礎と演習			
	後期	保育者論		造形Ⅱ	憲法	障害者教育総論		発達心理学Ⅱ 感情・人格心理学
					健康科学実習Ⅱ	知的障害者の心理・生理・病理		社会心理学 福祉心理学
					スピーキング・リスニング(2)	肢体不自由者の心理・生理・病理		
2 年次	前期	特別支援教育	幼児と環境	保育学		病弱者の指導法		心理学統計法 心身科学
			幼児と言葉	音楽Ⅱ		病弱者の心理・生理・病理	学習心理学及び言語の習得	比較心理学
			幼児と表現A				障害者・障害児心理学	社会統計学Ⅰ
			保育内容総論					心理学実験Ⅰ
	後期	保育カリキュラム論	保育内容の指導法・環境	生涯教育論		肢体不自由者の指導法		心理学実験Ⅱ 教育心理学概論
		幼稚園教育実習事前事後指導	保育内容の指導法・言葉	音楽Ⅲ		知的障害者の指導法		心理学研究法 司法・犯罪心理学
			保育内容の指導法・表現A				健康・医療心理学	心理学的支援法
							生理心理学及び神経心理学	加齢基礎論
	通年			体育Ⅰ				
3 年次	前期	幼稚園教育実習Ⅰ	幼児と健康			発達・重複障害教育総論		認知心理学 臨床心理学概論
			幼児と人間関係			知的障害者教育総論		知覚心理学 老年心理学
			幼児と表現B					精神医学Ⅰ データ処理とデータ解析Ⅰ
	後期	教育制度論(関係行政論)	保育内容の指導法・健康			視覚障害者教育総論		精神医学Ⅱ データ処理とデータ解析Ⅱ
		保育方法論	保育内容の指導法・人間関係			聴覚障害者教育総論	心理的アセスメント	産業・組織心理学
		幼児理解の理論と方法	保育内容の指導法・表現B					
		幼稚園教育実習Ⅱ						
	通年	幼稚園教育実習事前事後指導		体育Ⅱ				
4 年次	前期	教育相談(幼児教育)						家族心理学 教育相談(教育・学校心理学)
						特別支援学校教育実習		
	後期	保育・教職実践演習(幼稚園)	保育内容演習					
	通年					特別支援学校教育実習事前事後指導		

福岡県立大学人間社会学部人間形成学科の専門性を活かした「子ども心理教育プログラム」+特別支援学校教諭養成の概要

【福岡県立大学 教育の目的】 広く知識を授け、実践を重視した専門の学芸を教育研究して、真理探究の精神と豊かな創造性を身に付けた人材を育成し、もって文化の向上、保健・福祉の増進および地域の発展に寄与する

【人間形成学科 教育の目的】 人間の心身の形成過程と教育およびその諸問題に関する総合的な研究・教育を行い、幼児教育・保育または生涯にわたる心理臨床などに携わる専門的な人材を育成する

学士
(教育学)

人間形成学科ディプロマ・ポリシー(DP)

- ・現代において求められる幅広い基礎的教養を有している。
- ・保育・幼児教育または心理学及び心理的援助、隣接諸科学に関わる基礎的知識を有している。
- ・現代において求められる汎用的技能を身につけている。
- ・保育・幼児教育または心理的援助に必要な基礎的スキルを身につけている。
- ・教育および心身に関する諸問題を検討するための基本的な科学的手法を身につけている。
- ・現代における諸問題について、幅広い分野の知識をもとに、必要な情報を収集、分析し、表現することができる。
- ・教育または心身に関する諸問題について論理的に思考し、判断することができる。
- ・教育または心身に関する諸問題について、自らの考えを適切に表現することができる。
- ・異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。
- ・教育または心身に関する諸問題に対して主体的に取り組むことができる。
- ・多様な人々の立場やものの見方について理解し、協働する力を身につけている。

関連科目：教育および隣接諸科学の専門的な知識を身に付ける

子ども心理教育支援プログラムに併せて特別支援教育の教員免許状を有する人材を養成する

特別支援学校教諭教職課程

整合性

(1)就学前からの教育・心理発達を踏まえた特別支援学校教諭、(2)特別な支援を要する子どもへの対応と心理的支援の知識や方法を身に付けた幼稚園教諭を養成できる

展開科目：

保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能、
人間の心の理解および心理的援助に関わる
専門的な知識・技能、
教育・心身に関する諸問題を論理的に
考察する力とその成果を表現する力
を身につける

子ども心理 教育支援プログラム

幼稚園教諭一種免許状・認定心理士を併せて取得し、
乳幼児期からの子どもの発達段階を理解し、
かつ心理学に関する基礎的な知識および相談業務に
関する基礎的スキルを有した人材を養成する

相乗効果

幼稚園教諭教職課程

認定心理士

心理学の専門家として仕事をするために必要な、最小限の
標準的基礎学力と機能を修得したことを学会が認定する
※最低 36 単位(学会認定に必要な単位数)

基幹科目：教育学、心理学および保健学に関わる基礎的・基本的な知識と技能を身に付ける

人間形成学科 専門教育科目

基盤教育科目・全学横断科目